

環境について
みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

Save The Kikuchi River

川

川

魚といえばまずハエ、コイ、フナ、ウナギなど思いうかべます。その中でなんとと言っても私達の生活に一番身近なのはハエでしょう。ハエの標準名はオイカワと言いますが菊池川流域では標準名はあまり通用しません。コイ目コイ科オイカワ族、体は小さいけれどもコイ科です。地名はハエ、ハヤ、シラハエ、シラバエ、ハス(淀川流域)、チンマ(近畿地方)、ヤマベ(関東地方)、ジンケン(東北地方)この辺りでは雄をアデサと言うこともあります。長崎に来ていたドイツ人の医師シーボルトがヨーロッパに紹介した時、学名を Zacco Platypus としたのは日本語の雑魚(ザコ)に由来したものです。食性は雑食性で藻や水草水生昆虫、小型甲殻類などです。

本州、四国、九州の河川、湖沼、中国東部、朝鮮半島、台湾に分布します。繁殖期の5〜8月になると雄は独特の婚姻色を呈します。顔は黒く体側は水色やピンクのきれいな模様ができます。流れの速い浅瀬に群がり砂礫の中に産卵し、3日程で孵化し3年で8〜15センチに成長します。オイカワとカワムツ(ヤマソ)をこの

辺りでは一緒にしてハ工という場合が多いようですが、橋の上などから見るとなかなか区別が付きません。どちらも川の中流域から下流域に生息していますが、どちらかというとオイカワの方がカワムツに比べて水の汚れに強く、生活排水の汚染にもオイカワの方が抵抗力があるようです。オイカワの方が流れの速い場所を好みカワムツより動きが素早いので区別できます。

川魚で何が一番美味しいかと聞けば
ウナギや鮎は別として大抵の人がハ
工と答えます。現在は川魚漁で生計
を立てている人は菊池川水系にはほ
んどいないと思いますが、昔から
一番商品価値が高いのはハ工ではな
いでしょうか。小魚ですが同種同型
が揃ってたくさん捕れるので佃煮な
どに適しているからです。

現在山鹿、和水、玉名地区における菊池川水系のハエの漁獲量はアユ、コイ、フナの次に多く、年間20トンぐらいあるようです。昔からシラハエは川魚漁にとっては一番金になる代表的な魚で雑魚としては一番高級魚の部類ではないでしょうか。

食べ方としては5〜6センチの小
型のハ工を砂糖醤油で甘辛く炊いた

甘露煮が一般的で、炊く時にミリンや酒を入れたり、ぎょうせん飴やあめがた(高瀬飴)を入れたり、甘露煮を昆布巻きにしたりと、昔からいろんなおいしい食べ方が工夫されています。

捕り方としてはたくさん取る場合は刺し網や投げ網をしますが、釣りを趣味としている人には、絶好の川釣りの対象魚で、大人から子どもまでハエ釣りほど馴染みの深い楽しみはあります。子どもが何匹かでも釣って帰れば、すぐに家庭で炊いてくれるような美味しい魚ですから昔から田舎の貴重な蛋白源、カルシウム源でありました。

ハエの釣り方には二通りあつて、まず普通の釣り方は竿とテグス、浮き錘、釣り針に餌をつけて釣る方法です。もう一つは「かがしら」といつて擬餌針で釣る方法です。これは戻しのない針を使うので特殊な技術が必要です。2メートルほどの柔らかい竿に、竿の長さの3倍ほどもあるような、馬の尻尾をより合わせたテグスの先に擬餌針を4、5本付けて振り込む方法です。昔は名人がいいましたが、最近はあまり見かけなくなりました。

歴史調査の楽しみ方

日
平
城
跡
27

暮れに、無事、日平城跡の調査を終えることができました。今月号から、復習をかねて、まとめを行います。

城跡が築かれた花弁^{はなびら}礼山^{れいざん}は、標高342・2mで、菊水^{きくすい}地区で最も高い所にあります。菊池^{きくち}川の白石堰^{しろいしづき}が標高7・8mですから、高さの度合が分かります。今回は、中心区画とその周辺部を取り上げます。

I 郭の山頂は、岩場で見晴らしの良い所です。ただし、北東方向だけは、飛び地・尾根の「城山」しろやまがあるために、全くの死角になります。したがって、この地も、積極的に縄張りへ取り込まれています。

Ⅱ郭は、傾斜尾根を造成したものです。段下のⅢ郭からは、高台に见えます。毘沙門天びしゃもんてんが祀られています。が、当時も、城の守護神などが鎮座した神聖な場所でしょう。

Ⅲ郭は、城内で最も大きな平場で
す。守備兵の詰め所や、倉庫が考え
られます。南隣りには、小堀切^{ほりきり}2を
挟んで、Ⅳ郭があります。Ⅲ郭―Ⅰ
は、いわゆる「井戸くるわ」で、今

も雨水を湛えた貯水池が残っています。

次に、これから中心区画の御御施設です。空堀^{からほり}1は、南側裾部を半周しています。縁に土墨^{どるい}を積み、肩部の^{のりめん}法面は、削り落されています。さらに、西端部では、IV郭下から延びる西側主軸尾根を、断ち切る堀切の役目も、果たしています。

東側では、斜面部と裾部で、空堀2と堀切3が並走しています。上位の空堀2は、直線的に掘られて、散兵線のように見えます。堀切3は、V郭と南側主軸尾根を切り離す役目があり、北端が、大規模な堅堀1に変化しています。両肩部に土塁を積み、山腹を、真一文字に下っています。一方、南端の堅堀2は、谷部に手を入れたものです。

V郭は、中心区画の外縁部で、南側主軸尾根の北端部にあたります。東側派生尾根からの山道も、この郭を経由しないと、城内には入れません。

この郭の南側にあたる東側派生尾根の付け根には、「馬に水を飲ませ

た井戸」と伝えられる大穴（五郎者池）があります。実際、この平坦な尾根から、蛸浦集落へ下る山道は、城へ兵糧を運び込んだ馬道と考えられますので、この伝承に見合う遺構です。

日平城跡は、これらの中心区画を軸にして、ヒトデの足のように広が

る尾根筋に、山城としての遺構が、残っています。順を追って、ブロック毎に、まとめていきたいと思います。

今年は、日平城が落城してから430年目にあたります。

今年、日平城が落城してから430年目にあたります。

大田幸博

(元・菊水町史編纂委員会副委員長)



日平城跡 中心区画と周辺部